

協会活動状況:各地区

各地区委員会 活動状況

全国8地区の地区委員会では、その土地に応じた様々な活動を活発に行っております。
今号では今年度の活動状況・計画や報告等についてお知らせいたします。

※新型コロナウイルス感染症対策のため、状況をみながら開催を検討

(2020年8月3日現在)

北海道・東北地区活動計画・報告 委員長 佐竹 一秀 (株式会社 エコリス)

1. ビオトープアドバイザー(BA)認定試験研修会・仙台 新規、更新・スキルアップ研修会
(秋頃の予定⇒COVID-19の状況好転せずリスク回避のため、本年度見合わせ検討中)
2. 大槌町「農薬感受性ミズアオイ再生プロジェクト」支援
①埋土種子攪乱作業(4月実施) ②町策定計画との調整、活動協力(継続中) ③大槌自然学校との連携(8月開花時期に合わせて町民観察会・懇談会予定)
3. 「慈恩寺ホタルの里づくり」の支援
①マコモ植付けの面積拡大(2000㎡) ②慈恩寺ハスの移植(R3年3月予定) ③上流側の環境整備(5月実施及び7月中旬以降予定) ④導水路の整備(5月完了)
4. いわき市三和町ホタル水路再生計画: 昨年の台風19号の被害とコロナ禍の影響を受け三和小中学校との連携が計画通りにいかず、整備計画の見直しを検討中。
①ホタル水路の浚渫・除草・環境整備(再検討) ②三和小中学校との連携(再検討) ③ゲンジボタルの捕獲・飼育(7月に調査、捕獲・飼育を実施予定)
5. 活動を通しての会員拡大



4月攪乱後発芽した大槌ミズアオイ(7月3日撮影)



マコモダケの収穫状況



いわき市ホタル水路脇河川の被害状況

関東地区活動計画・報告 委員長 砂押 一成 (株式会社 砂押園芸)

1. ビオトープフォーラム2020横浜 企画運営
2. 自治会・学校ビオトーププロジェクト継続支援実施
・村松小ビオトープ ホタル放流会(東海村)
・長堀小4学年 ビオトープ学習会(ひたちなか市)
・常葉台ビオトープ ホタル観賞会(ひたちなか市)
・高野宿ビオトープ生物調査実施 計6回
3. ひたちなか市親水性中央公園ビオトープメンテナンス計画協力
4. 水戸市立上大野小学校ビオトープ計画協力
5. Facebook等SNSを使った地区情報発信の継続での情報発信
※Facebook:「日本ビオトープ協会 関東支部」
6. 他団体との情報連携強化
7. 会員拡充
・個人会員1名2020.4入会(埼玉県)



小学校ビオトープ



放流会



雑木林管理

北陸・信越地区活動計画・報告 委員長 久郷 慎治 (株式会社 久郷一樹園)

1. 富山県ビオトープ協同組合との研修会の開催
2. 富山県ビオトープ研究会との勉強会の開催
3. 射水ビオトープ協会との研修会の開催
4. NPO法人きんたろう倶楽部へのビオトープ設計・施工協力
5. 会員増強
法人会員の勧誘強化
近隣県(石川県・新潟県・長野県)の会員の獲得



BA認定試験研修会・富山(2019.10)

静岡地区活動計画・報告 委員長 藤浪 義之 (株式会社 藤浪造園)

1. 講演・講習・視察会の開催
・用水池のかいぼり 日時:7月23日(木祝)午前8:00～ 場所:静岡市清水区馬走
※静岡地区会員のみ参加者を募集して開催
<NPO法人静岡自然環境復元協会との共催>
2. 麻機遊水地保全活用推進協議会の参加
・麻機湿原を保全する会主催 みずあおい、オニバス自生地攪乱作業 協力 5月29日 実施
・夜の昆虫観察会 未定 ・サクラタゲ観察会 10月17日 予定
3. 「ホタル水路づくり研修会」への協力
4. 中町浄水場里山再生 指導及び協力
5. 静岡地区会の開催
6. 会員の拡大



用水池のかいぼり



オニバス自生地除草作業

中部地区活動計画・報告 委員長 青山 正尚 (太啓建設 株式会社)

1. 中部ブロック会議の開催
2. BAスキルアップ研修会の開催
3. ビオトープ、生物多様性についてのイベントへの参加
→新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催見合わせ
4. 豊田市立寿恵野小学校でビオトープ勉強会を開催
「寿恵野の自慢は地球の自慢！ビオトープの魅力発見発信大作戦！」
令和2年7月20日(月) 4年生各組ごとに開催 計115名参加
資料として協会冊子『ビオトープってなあに？』使用
5. 協会本『ビオトープづくりの心と技』の販売活動
6. 会員募集 法人・個人会員



小学校でのビオトープ勉強会

近畿地区活動計画・報告 委員長 西川 勝 (近江花勝造園 株式会社)

1. 講師、江見和緯、地球市民の森のビオトープ地の調査研究を実施(ラーゴ)共 年間通して(継続)
2. 西の湖のヨシ焼共同(地主)による指導 2020.3.23
3. 甲賀地域は中止として、船木町盤石跡地調査
2020.3~2020.5(ビオトープ池地)継続事業
4. 蒲生野の湯地内のビオトープ池調査
5. 竜王町貯水池、動物、植物調査、観察会
6. 会員拡大



ビオトープ池の調査



中・四国地区活動計画・報告 委員長 梶岡 幹生 (株式会社カジオカL.A)

1. 全国都市緑化フェア「はなのわ」が広島で11月23日まで開催されています。(メイン会場は3月19日から5月23日まで)その中でビオトープ協会の会員が自然観察会をする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、中止になりました。会員のカジオカL.Aが出展した「びおBOXガーデン」には、生き物に関心のある親子が熱心に観察をしていました。
2. 新型コロナで観察会の中止、延期が多々ありましたが3密に考慮してスタートしました。
◆2020年6月22日(月)比治山大学付属幼稚園(園児120名参加)で自然観察会の開催
◆2020年6月24日(水)国営備北丘陵公園にて第1回自然観察会を開催(東小3年27名の参加)
◇国営備北丘陵公園にて「夏休みの自由研究」8月8日に4回開催。3密を避けるため1回15人程度に限定して、昆虫標本づくり・植物標本づくりを行います。
3. ビオトープ出前授業 日時未定
4. 地区会員の情報交換
5. ビオトープ事例集の拡販
6. 会員拡大



全国都市緑化フェアの様子



自然観察会の様子

九州地区活動計画・報告 委員長 田中 和紀 (内山緑地建設株式会社 九州支店)

1. BA会員研修・視察会
公園内で手掛けているビオトープの活動状況、維持管理手法を聞き、スキルアップに繋げる。
2. 学校ビオトープの事例報告会
BAが報告を兼ね主導で市民、学生なども参加してもらい「見る.知る.学ぶ」啓蒙を図る。
3. ビオトープ活動:BA更新研修会、PR活動
4. 会員拡大



主席BA出前講座(2019.12)

その2. 明るい緑道と闇の排水路

農学博士、元東京農業大学
日本ビオトープ協会顧問

立川 周二



どんなに明るい緑道を歩いても、暗い闇にある水の流れを思うことがある。私の足元の地下には、暗渠となった排水路がある。排水路は昔からあったわけではない。この台地が武蔵野と呼ばれていたころ、雑木林や草原を雨水や湧水を集めて小川が流れていた。この流れは農業用水として大いに利用され、子供が水遊びをして、また遊人が手足を水につけ汗をぬぐったことだろう。小魚やカエルが泳ぎ、岸边を彩る草花が見られた。時期にはホタルが乱れ飛び、湿地ではサギソウが群生した。東京都世田谷区のこの光景はそれほど昔のことではない。戦後から人が増え始めたとはいえ、オリンピックが開催される前ごろまで、畑と雑木林は至る所にあった。次第に林野と農地が減ると、みるみる住宅が増えて密集した。小川の水は必要とされず、濁った水は悪臭を放し、大雨には越流するときもあった。人々が川に背を向けると、まるで厄介物扱いをされた。昭和40年代後半から、多くの小川が埋め立てられた。もとの小川は排水路の幹線となり、地表には樹木が植栽され、歩道として整備された。緑道の誕生である。こうした一連の変化は都市化の必然かも知れない。都会の道路で、バイクや自動車の通行を禁じるのは稀である。歩行者が安心して、何の気兼ねもなく、目的地までゆったりと辿れるのである。樹木や草花、場所によってせせらぎもある。プロムナードとして利用されている世田谷の二つの緑道、蛇崩川と烏山川を紹介する。



図1. 蛇崩川緑道-1: 蛇崩川(じゃくずれかわ)は世田谷区弦巻付近を発し、源頭では道幅も狭く往時の流れのように緑道も蛇行している。



図2. 蛇崩川緑道-2: 下流に歩いていくと源流とは異なり、しだいに道が広くなり建物も増える。



図3. 蛇崩川緑道-3: 世田谷区から目黒区へ入り、風景も変わって見える。高層の建物が増えたように思う。



図4. 蛇崩川緑道-4: 蛇崩川は源流から約5km流れて、東横線中目黒駅付近で目黒川に合流する。中央が目黒川、左から右の目を見た蛇崩川が流入する。

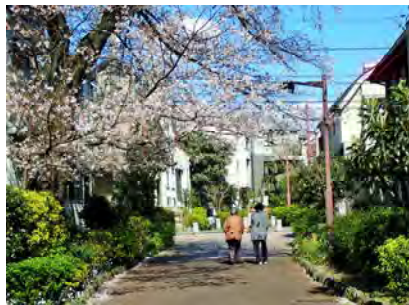


図5. 烏山川緑道-1: 世田谷区北烏山にある高源院の池が源流の一つとされる。流れは途中で代沢川と合流し、約12km流れて目黒川に注ぐ。

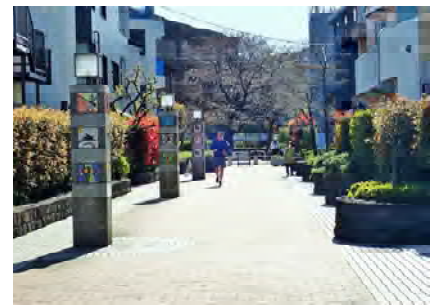


図6. 烏山川緑道-2: 地域の中学生が描いた絵を陶板に焼き付け、街灯の柱や路上にはめ込まれているので、歩きながら鑑賞できる。



図7. 烏山川緑道-3: 学校のプールの排水を浄化して緑道の側溝に流している。流れに沿って配置されたベンチは一時の憩いの場である。



図8. 烏山川緑道-4: 緑道には僅かではあるが、児童公園が設けられている。親に連れられた幼児が遊具で外遊びができる。



図9. 烏山川緑道-5: 緑道でのイベントは少ないが、アート展と称して個人が手作りした小物を展示即売する野外会場にもなる。

編集後記

2020年夏、本来ならば世界のスポーツの祭典である「東京オリンピック・パラリンピック」が開催された年。周知の通り、新型コロナウイルスの影響により延期になったことは衝撃的でした。

協会においても、今年度6月5日で準備を進めていた「第18回通常総会」・「ビオトープフォーラム」の開催がかなわなかったことは残念でなりません。(総会は延期し6月26日WEB会議にて開催)

さて、本号では「生き物の豊かさを育むビオトープ」を特集テーマといたしました。

その巻頭言として、(公)地球環境戦略研究機関国際生態学センター主任研究員、矢ヶ崎朋樹様より、今後の日本のビオトープ保全の取り組みについて、幼児期自然体験や動植物との関わり、その後の人間形成との関係性等をご教示いただき、提言をいただきました。

特別寄稿においては、神奈川県環境科学センター長、加藤洋様より、神奈川県におけるマイクロプラスチック調査の漂着実態や、「かながわプラごみゼロ宣言」におけるクラウドファンディングについてご報告いただきました。

また、新シリーズとし、野澤日出夫副会長による「今さら聞けないSDGs…」の連載がスタート、その他、当会会員による実践報告や地区活動事例等が満載です。本誌を手にとされる皆様のお役に立てることを切に願います。

最後になりましたが、本誌発行にあたりご執筆いただきました先生方、執筆者の皆様に心より感謝申し上げます。

編集委員:情報委員 若月学・砂押一成、正副会長、総務委員、本部事務局

自然との共生をめざして一緒に活動しませんか。・・・会員募集中・・・

- | | |
|-------|---|
| 会員の種類 | ・法人正会員 この法人の目的に賛同して入会し、活動を推進する法人
・個人正会員 この法人の目的に賛同して入会し、活動を推進する個人 |
| 年会費 | ・法人正会員 100,000円
・個人正会員 10,000円
※10月以降3月末までのご入会は規程により、年会費は半期分となります。 |
| 会員の特典 | ・年2回発行の機関紙「ビオトープ」の入手。
・会員メーリングリストによりE-Mailによるシンポジウム、研修会等情報の入手。
・その他、地区活動への参加など。 |

入会手続き、入会申し込み用紙については、WEBページ<http://www.biotope.gr.jp/application/apply/> または下記本部事務局までお問い合わせ下さい。

日本ビオトープ協会誌「ビオトープ」No. 46

2020年(令和2年)8月31日発行

発行所	特定非営利活動法人 日本ビオトープ協会
発行責任者	櫻井 淳 (日本ビオトープ協会 会長)
編集	協会 情報委員会・正副会長・総務委員会・本部事務局
本部事務局	〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-6-7-101 TEL 03-6304-1650 FAX 03-6304-1651 E-Mail honbu@biotope.gr.jp URL https://www.biotope.gr.jp/

会員、ビオトープアドバイザーからの投稿歓迎

ビオトープの研究、実践事例等、会員・ビオトープアドバイザーの投稿を募集しています。投稿頂く場合は本部事務局までご一報下さい。



エゾシマリス
(北海道幌加内町幌加内湖公園)
写真 内海 千樫 氏 提供